

令和7年度羽田空港の機能強化に関する都及び関係区市連絡会幹事会（第2回）

会議の概要

- 会 議 名 令和7年度羽田空港の機能強化に関する都及び関係区市連絡会 幹事会（第2回）
- 開 催 日 令和7年12月24日（水曜日）
- 出席状況 東京都、千代田区、港区、新宿区、文京区、台東区、墨田区、江東区、品川区、目黒区、大田区、世田谷区、渋谷区、中野区、豊島区、北区、荒川区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区、西東京市、国土交通省

○ 議事の要旨

- * 国土交通省より、騒音測定結果と部品欠落報告、第7回羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会に関する報告等について説明
-

【主な意見及び国の回答等】

- ・ 検討会では、海上ルートの実現に向けた今後の方向性が示され、調査研究・検討が進展したと認識している。しかし、区としてこれまで継続して求めてきた具体的な方策は、今回も示されていない。こうした点から昨年の第6回検討会と同様、今回の検討会の結果も看過できないものと考え、昨日、国に対して要望書を提出した。要望書では、市街地上空を通過しない海上ルートの実現に向けた検討の加速、区民負担軽減につながる具体的な方策の提示と早期実施を求めている。
⇒ 要望書については昨日受領した。いただいた意見は真摯に受け止めており、今後の方向性に反映しつつ、対策を進めていきたい。
- ・ 海上ルートの早期実現を要望する。固定化回避の検討会において、現在検討されている RNP-AR 方式が今後さらに進歩し、悪天候時でも曲線進入が安全に行える可能性があると考えている。今後、新飛行経路の運用において、こうした技術が活用できるようになれば、悪天候時に江戸川区上空を通過する従来ルートでも、海上ルートを飛行する経路の導入を検討していただきたい。これは要望である。
- ・ 今回の検討会では、市街地上空を通過しない海上ルートの実現や、さらなる騒音負担軽減など、今後の方向性が示された。海上ルートの実現に向けた検討の加速や早期実現を求める声もあった。国土交通省には、地元の声を受け止め、引き続き説明責任を果たすとともに、適切な検討を進めていただきたい。また、都民の理解がさらに深まるよう、丁寧な情報提供と騒音・安全対策の着実な実施に取り組むことを改めて要望する。

以上